



## 「道の駅」とはなんですか？

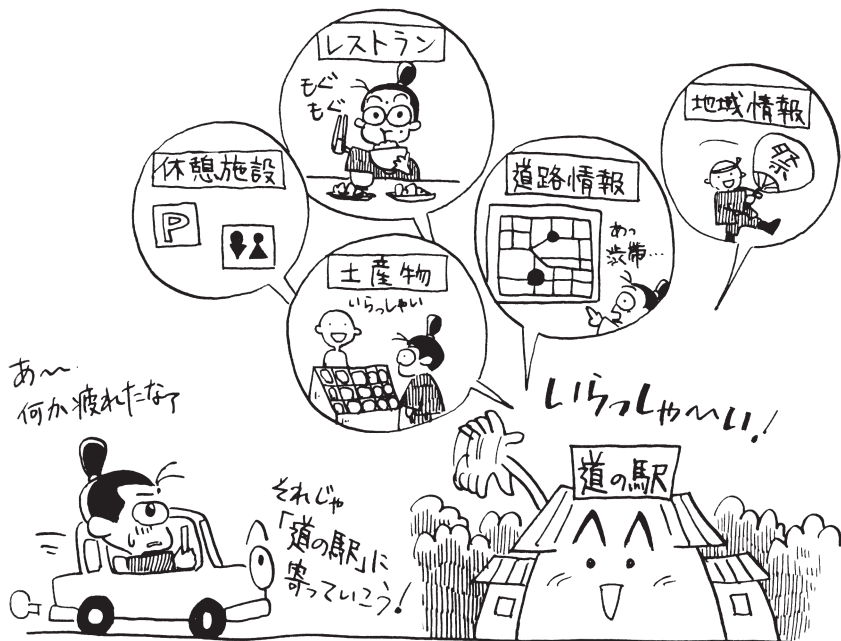
これまでの道路整備は、車がスムーズに流れることを重点に置いて進められてきました。そのため、駐車や休憩ができるにぎわいの場といった「たまり」の役目については大きく立ち遅れてしまいました。

近年、マイカーによる長距離ドライブが増え、女性や高齢者のドライバーが増加するなかで、高速道路のサービスエリアのように一般道路にも安心して自由に立ち寄ることができ、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められています。

一方、地域においては活力ある地域づくりのために沿道地域の文化、歴史などを紹介し、特産物などを宣伝して個性豊かなサービスを行う場が求められています。道路の休憩施設が地域の個性あるサービスを行うことにより、地域色豊かなにぎわいのある空間ができあがります。さらに、このような空間ができることによって周辺のまちが手をつなぎ、共同で朝市などのイベントを開催するなど、地域のつながりが強くなることも期待されます。

こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の人々のための「情報発信機能」、そして地域と地域とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」の3つの機能を併せもつ休憩施設として「道の駅」が誕生しました。道の駅という名は、昔、旅人が馬や駕籠などを乗り換え、いろいろな情報を得、休憩する場所を「駅」と呼んでいることに由来します。今日、駅といえば鉄道の駅を思い浮かべやすいので、道の駅としたのです。

道の駅には、誰もが安心して利用できる駐車場やトイレ、地域の伝統的



な食事を楽しむことのできるレストラン、地域の特産品・工芸品を見たり、買ったりすることのできる施設、周辺の観光施設の案内や道路交通に関する情報提供など多くの人々に親しまれるように、地域独自のアイデアが活かされています。

また、道の駅の新たな役割として災害時の拠点施設としての機能も期待されるようになってきました。平成16(2004)年の新潟県中越地震では、救援部隊に駐車場やレストランを開放し、おにぎりも提供されました。被災された方の避難場所や給水車の基地にもなり、炊出しや温泉施設の無料開放なども行われました。

道の駅が全国に広がり、海外にもその良さが理解され、日本と同じような道の駅が見られるようになりました。